

## 長期宿泊による体験的教育活動・セカンドスクール 東京都武蔵野市立第一小学校

### 学校の概要

#### 学校規模

学級数：14学級

児童数：424人

教職員数：20人

#### 体験活動の観点からみた学校環境

武蔵野市は、地理的には東京都のほぼ中央部に位置し区部に接する人口約13万人の住宅地を中心とする地域である。人口密度が高く、都市化が進み、自然が減少している。

学校は、JR中央線と私鉄の京王井の頭線の吉祥寺駅周辺の商業地区と、都立井の頭恩賜公園の緑化地区を含む住宅街を校区とする。

給与生活者の家庭が多く、核家族化と少子化の現象が如実に現れてきており、地域社会で集团的に活動したり、大勢で遊んだりすることが減っている。

本市教育委員会と学校が協力してまとめた「子どもの生活実態調査」によれば、

- ・ 自然体験の場が少ない
- ・ 友達同士の関係が希薄
- ・ 基本的な生活習慣が十分身に付いていない

といった状況が指摘されている。

#### 連絡先

〒180-0004

東京都武蔵野市吉祥寺本町

4丁目17番16号

電話：0422-22-1421

FAX：0422-23-0394

### 体験活動の概要

#### 活動のねらい

学校の間を移し、豊かな自然とのふれあいを通して、自然と人間との共生、環境保全の必要性、自然に対する畏敬の念などについて体験し、生きた学力の向上を図る。

長期の宿泊による生活時間を活用し、生活上の自立に必要な知識・技能や生活習慣を身に付けるとともに、一人ひとりの子どもの創意を喚起し、情操を涵養し、個性の伸長を図る。

自主的な集団生活や、人々との交流を通じて、信頼関係と人間関係を築く力を育てる。

主な活動内容・方法(位置付け・期間等)  
第5学年児童全員参加の教育課程内の活動

主たる活動地は、長野県飯山市信濃平  
期間は7泊8日(9月下旬)

自然体験活動としての黒岩山登山

(現地林業指導員の協力・指導)

農業体験活動での稲刈り・脱穀・精米

(現地指導員の指導)

郷土食体験で蕎麦・笹寿司・おやき作り

#### 体制等の工夫

現地：管理職 看護婦(全期間)

担任教諭 補助教諭(交替)

学習・生活指導員(全期間)

学校：後補充の講師1人配置(期間中)

#### 活動の成果等

「食」の総合的な学習に現地での体験活動が位置付けられた。

児童に自立的・協力的な態度が育った。

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

ア 雄大な大自然の中での体験的な活動を通して、豊かな心や生きた学力を身に付ける。

イ 自分たちで考え、判断し、解決しながら生活できる。

ウ 互いに教え合い、励まし合いながら協力して生活するとともに、基本的な生活習慣を身に付ける。

エ お世話になる人たちに対する思いを自分なりに伝えて、人と人とのつながりやふれあいを大切にできる。

### (2) 全体の指導計画

#### ア 活動の名称

「いいやまセカンドスクール」

#### イ 実施学年

第5学年

#### ウ 活動内容

自然に関わる体験活動：稲刈り・脱穀・選別・精米体験，オリエンテ-リング，登山等

地域の産業にふれる体験活動：漁港・養殖場・きのこ工場の見学等

地域の文化にふれる体験活動：そば・笹寿司・イナゴの佃煮の郷土食体験，和紙すき体験等

地域の方と交流する体験活動：どうぞよろしくの会，民宿の方とのキャンプファイアー，感謝の会等

#### エ 教育課程上の位置付け

(ア) 教育課程内の体験活動として位置付けており，9月下旬からの木・金・土・日・月・火・水・木曜日の8日間の宿泊を伴う活動である。セカンドスクール終了後に健康観察の連絡を取りつつ，金・土曜日を学年の振替休業としている。

(イ) 各活動内容は，それぞれの特質を踏まえて，総合的な学習の時間，特別活動の学校行事や学級活動の他，一部を各教科に位置付けている。

#### オ 実施期間(日数や時間数)

(ア) 日数は，9月27日(木)から10月4日(木)までの8日間

(イ) 時間数は，特別活動の学校行事13時間・学級活動3時間，総合的な学習の時間12時間，国語科2時間，社会科8時間，体育科4時間，音楽科1時間，家庭科1時間。計44時間となる。

#### カ 活動場所

長野県飯山市の民宿に分宿し，宿泊地周辺及び新潟県能生町で活動している。

#### キ 継続の状況等

事前に社会科で「農業」についての学習をし，稲作についての模擬体験もした。また，各地の和紙の特徴や原材料等について調べた。

事後は学習の記録をもとに，各自やグループでセカンドスクール新聞や資料作りをし，保護者に発表した。また，コンピュータを活用して5年生全員が「私のセカンドスクール」というホ-ムペ-ジを作り，次年度実施する4年生にも見せて事前指導の一環とした。更に，「食」について，総合的な学習として発展させ，諸外国にも目を向けた取組として深めた。

## 2 活動の実際

### (1) 事前指導

#### ア 「米」についての学習

本校のセカンドスクールの中心的な活動は、米の収穫時の体験である。そこで年間のカリキュラムを組み直し、7月から9月にかけて社会科の「農業」を学習することにより児童の意欲付けを図った。また、総合的な学習の導入として米の収穫体験を位置付け、事後の課題づくりに結び付けた。

#### < 学習の流れ >

月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
学習内容	バケツで米を作ろう	米作りのさかんな庄内平野（社会科）		日本と外国の米を食べてみよう（総合）	セカンドスクール収穫体験	米から見える世界（総合）
	漁業についての課題解決学習					

#### イ 体験活動実施地についての学習

総合的な学習の時間の小単元「飯山ってどんなところ」の導入指導では、調べ学習のテーマを選択して課題別グループを編成した。課題追究に当たっては、飯山市の社会科副読本、観光パンフレット、飯山市市勢資料、インターネット、図書室の資料等を活用した。資料を集めて調べるときは、それぞれの児童が資料を持ち寄り、担任が指導に当たりながらまとめた。セカンドスクール実施直前に中間発表会を行い、情報の共有化を図るとともに現地での追究課題を明確にさせた。これらの活動によって、子どもたちは大きな期待感と飯山市への親近感をもって出発することができた。なお、子どもたちが選択したテーマは以下のとおりである。

- ・飯山市の地形 ・飯山の動植物（ブナの森，草花など） ・信濃平の人々のくらし
- ・飯山市の気候（雪が多く降るわけ，東京との違い） ・飯山の歴史 ・千曲川
- ・飯山市の農業（米，きのこ，アスパラ，じゃがいも，ブルーベリー，りんご）
- ・北信濃の伝統工芸と特産品（内山紙，飯山仏壇など） ・能生町の漁業

### (2) 活動の展開

#### ア 活動の場や施設

長野県飯山市信濃平の民宿に、男女混合の8～10人の児童のグループに生活指導員1人がついて分宿する。今回は、校長，教諭，学習指導員，看護婦等が宿泊する本部として1軒，児童の分宿に8軒の民宿に依頼した。山登りや田での稲刈り，オリエンテーリングのような屋外の活動には，それぞれの集合場所を決めて全員が集合し，そこから活動場所へ移動するようにしている。

郷土食体験のように，児童の選択によって蕎麦づくり・笹寿司づくりとそれぞれ活動内容

によって民宿が異なる場合には、各民宿に集合するというようなかたちをとる。

学習や生活の記録をまとめたり、食事の手伝いや佃煮づくりをしたりするのは、児童が宿泊している民宿が活動の場となる。

#### イ 活動プログラム（概略）

1日目	2日目	3日目	4日目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出発式（学校）</li> <li>・ 昼食（横川SA）</li> <li>・ 開校式（飯山市）</li> <li>・ 各民宿着</li> <li>・ 自己紹介の会</li> <li>・ もちつき大会</li> <li>・ 夕食</li> <li>・ 学習と生活の記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝食</li> <li>・ 稲刈り脱穀体験</li> <li>・ 昼食（田で円座）</li> <li>・ 脱穀選別体験</li> <li>・ 夕食</li> <li>・ 手紙書き</li> <li>・ 学習と生活の記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝食</li> <li>・ 飯山オリエンテーリング</li> <li>・ 昼食（城跡）</li> <li>・ 和紙すき体験</li> <li>・ 夕食</li> <li>・ イナゴ採り器作り</li> <li>・ 学習と生活の記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝食</li> <li>・ 新潟県能生へ移動</li> <li>・ 地引き網体験</li> <li>・ 昼食（藤崎海岸）</li> <li>・ 見学（漁港，市場，練習船，養殖場）</li> <li>・ 夕食</li> <li>・ 学習と生活の記録</li> </ul>
5日目	6日目	7日目	8日目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝食</li> <li>・ 黒岩山登山</li> <li>・ 昼食（大鍋汁）</li> <li>・ 自然観察体験</li> <li>・ イナゴ採り</li> <li>・ 夕食</li> <li>・ 精米</li> <li>・ 学習と生活の記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝食</li> <li>・ 見学（ダム，きのこ工場，養魚場）</li> <li>・ 昼食</li> <li>・ 温泉福祉施設体験</li> <li>・ 夕食</li> <li>・ 精米</li> <li>・ 学習と生活の記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝食</li> <li>・ 郷土食体験（おやき，そば，豆腐，笹寿司）</li> <li>・ 昼食（郷土食）</li> <li>・ イナゴの佃煮</li> <li>・ 夕食（感謝の会）</li> <li>・ 学習と生活の記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝食</li> <li>・ 地域清掃活動</li> <li>・ 閉校式（飯山市）</li> <li>・ 昼食（東部SA）</li> <li>・ 帰校式（学校）</li> </ul>

< 現地での起床時刻は午前6時30分，就寝時刻は午後9時30分 >

#### ウ 指導者・協力者

現地での指導については、教職員では管理職1人と学習指導員1人が全期間，担任教諭3人が5日間，補助教諭2人が4日間で交替の体制をとっている。

また、健康安全確保や生活指導のために、看護婦1人，生活指導員8人が全期間にわたって児童と生活をともにしている。生活指導員は、教育系の大学生，又はその卒業者を主に依頼しており，人数は学級数や児童のグループ数に応じて増減している。



〔 びんを使った精米 〕

学校には、期間中の補助教諭として、現地に出張中の教諭の学級の代替え担任に、後補充講師が1人派遣される。

現地指導員として、観光協会職員、農業指導者、JA職員、伝統産業従事者、林業指導員、漁業組合員、海洋高校教員、民宿の方等に、主として体験活動や現地学習について専門的な立場から児童の指導を依頼している。

## エ 児童の活動の状況（一部）

### 自然に関する体験活動（自然にひたる）

朝、各民宿から集落の中央に位置する加保戸神社に集合。宿舎の背面の黒岩山の山道に入る。途中、こんこんと湧き出る岩清水で喉の渴きを潤し、アケビや山葡萄を口にし、蜂や蛇に注意を払いながら、こずえを吹く風と木陰に元気を取り戻す。ブナ林では用意していった聴診器を幹に当てて、森の命の営みの音を聞き、水の源の姿を実感した。

### 地域の方と交流する体験活動（人の心に触れる）

分宿してお世話になる民宿の方、生活班担当の生活指導員は、食事や洗濯の指導から健康相談、就寝の世話まで、親身になって児童に接してくれる。これらの方々には、保護者からの「我が子紹介カード」が渡される。そこに書かれた内容には、自分の子どもの良さを改めて見つめたり、親としてのしつけの面を反省したり、他の人に我が子を託す心情を願いに込めたものが多い。初めは緊張していた児童も、民宿の方が飯山の歴史や民話を話し、歌を聞かせて下さるうちに、アッという間に打ち解けた。

### 地域の産業に触れる体験活動（米の収穫）

刃がギザギザの稲用の鎌で刈り取り、前日に練習した要領で、ワラで縛って束ねる。脱穀の道具は、千把こきと足踏み式「ガーコン」。農家のおじさんに後ろから支えてもらいながら、収穫した米を選別した。籾すりはすり鉢と軟式ボールを利用して行い、最後の精米は、瓶に入れて木の棒で根気強くつついていった。そして、でき上がった米を、おむすびにして食べた。

現代農業の機械化は、目覚ましい。コンバインは刈り取りから脱穀・精米までを短時間で行い、カントリーエレベーターは選別から精米までを一括して大量に仕上げる。子ども



〔稲の刈り取り〕

たちは機械化のすばらしさを実感するとともに、それが、自分たちの作業体験と同じことに気づき感嘆の声を挙げた。

### 郷土文化に触れる体験活動（地域の食）

蕎麦・豆腐・おやき・笹寿司の4種類から選択し、各活動場所となった民宿で郷土食づくりを体験した。活動を精力的に支援し、指導してくれたのは、民宿のお母さんたちである。

## （3）事後指導

セカンドスクールの体験を総合的な学習の時間で発展させ、調べ学習を行った。その際、学区居住のインドとネパール国籍をもつゲストティーチャーを招き、「食」についての指導を受け、諸外国にも目を向けながら学習を進めた。

飯山での学習や生活の記録をもとにして、「セカンドスクール・イン・いいやま」という題材名で新聞や資料としてまとめ、学芸的行事として発表会をもった。

### 3 体験活動のための体制

#### (1) 学校と本市の教育委員会・現地機関との連携

全市立小・中学校18校からの教員1人ずつの参加により組織する「武蔵野市セカンドスクール実行委員会」で、各種情報交換、活動場所の開拓、市の担当者との連絡、実施報告書の作成等を行っている。

実施期間や活動場所は各学校ごとに異なり、本校の場合は、飯山市役所、信濃平観光協会、民宿組合、新潟県立海洋高校、能生漁業組合等と独自に連携をとり、実地踏査も行っている。

#### (2) その他

病気や怪我への対応として、飯山日赤病院に依頼。本部には、現地のレンタカーを1台を期間中借り入れるとともに、本市役所の携帯電話1台とトランシーバー数台を持参し連絡に活用している。

児童からは費用として、市内各校とも1泊につき2,000円を徴収している。他の交通費、宿泊費、活動費・保険料等は、全額を市費で負担している。

### 4 成果と課題

学習後に実施したアンケート調査では、多くの児童が「自分で考えて行動できるようになった。」「相手の気持ちを考えることの大切さがわかった。」と回答している。

#### 児童・保護者・教職員の声

さていよいよ稲刈りだ。長靴を履いて、田んぼに入った。かまの使い方や稲のしぼり方は、おじさんが手を取って教えてくれた。お米を作る人の喜びや苦労が分かった。

最後の日、泣かないぞと思ったのに、一番に泣いてしまった。帰った晩も飯山でのことを考えていた。目の前の広い田に、イナゴや青ガエル。夢のような8日間だった。

活動先での自然の豊かさや人とのふれあいから、多くのことを学んだようです。「自分は、いろいろなことができるんだ。」という自信が感じられるようになりました。

友人を受け入れたり、互いに協力したりして物事を進めようとする姿勢が高まった。

その後の教科学習でも、自分の体験と関連付けて解決方法を考える子どもが多くなった。

### 5 今後の取組の方向

「セカンドスクール」は、市全体で推進している事業でもあり、来年度以降も発展・充実させていくこととしている。

また、本校と同地区で田植えや秋の収穫体験を実施している学校、そして現地と一層の連携を図るとともに、体験活動を他教科等とリンクさせ、学習の質をさらに高めていきたい。

【本事例活用に当たっての留意点】

セカンドスクールは武蔵野市全体で推進している事業であり，その成果が注目されている。都会の子どもたちが7泊8日もの間雄大な自然の中で生活を営み，豊かな自然体験の活動を通して，豊かな心や学力を身に付けていくのである。最初の2，3日は緊張していた子どもたちも，このような長期の宿泊体験では自分をさらけ出し，もてる力をすべて発揮したり，協力し合ったりして，対象とかかわったり課題を解決していくことになる。それは，まさに，生活を通して学びをつくっていくのである。

このような，農山漁村や自然の中など環境が異なる地域で長期宿泊体験をしながら様々な体験活動を行うことは，指導や管理体制に十分留意する必要があるが，短期の宿泊体験では得られない質的に異なる学びが得られる可能性がある。いろいろな工夫に支えられることによって，このような体験がこれから増えてくることが期待される。